



三重中央だより

当院の理念(Principle) ● いのちの尊さを自覚し、病む人の身になって、安心で質の高い医療を行います。



産科医師 **前川有香**

テーマ

三重中央医療センターの 名医シリーズ ③

私が三重中央医療センターに赴任した初日、平成16年4月

1日に初めて見たお産は妊娠24週の早産でした。手のひらに乗りそうな小さな赤ちゃんを見て、ここで役に立てるようになるためには、もっと実力をつけなければダメだと痛感したことを覚えています。

「出産は病気ではない」とよく言われます。現在、日本の妊産婦死亡率は1/2,3000であり、女性がお産で命を落とすことはめったにありませ

ん。しかし、今も妊産婦死亡の世界平均は1/250であり、適切な管理を受けなければ、多くの妊産婦が命を落とす危険があるのです。「お産は何かおこるかわからない」と言われるのもまた真実であり、「何かが起こりうる」から産科医が必要なのです。

私は「名医」と言われるような医師ではありません。最新の治療を行った
り、革新的な研究成果を挙げたりしてい



る訳ではありません。それよりも、患者さんやスタッフにとって、いざという時に頼りになる「ええ先生」でありたいと思っています。

当院は、三重県で最初に認定された総合周産期母子医療センターであり、6床のMFICU（母体胎児集中治療室）を有しています。早産・妊娠高血圧症候群などで、NICU（新生児集中治療室）での新生児管理が必要とされる妊婦さんが三重県全域から紹介・搬送されてきます。私達は、NICUが受

受け入れ可能であれば、たとえ産科病棟が満床であっても、搬送は受け入れる方針です。病棟師長は毎日のように病床の管理に頭を悩ませていますし、患者さんにも病室の移動で迷惑をおかけすることがあるのですが、「搬送依頼は断らない」ための苦肉の策ですので、ご理解下さい。

産科とNICUは周産期センターの要ですが、ハイリスク妊婦さんを管理するためには、緊急帝王切開や大量出血に対応してくれる手術室や麻酔科・輸血部等の協力が欠かせません。当院の夜間や休日の緊急に対する体制は十分とはいえず、改善の余地があるのですが、まずは今のシステムで



最善を尽くそうと、超緊急手術に備えての訓練を重ねています。

当院は産婦人科専門医・周産期専門医を目指す若い医師の研修施設でもあります。臨床医として力を付けるためには、患者さんをしっかり診ることが大切です。私の経験は、辛い記憶も含めて、次世代を担う医師に伝えていきたいと思います。研究に関しては、近年は国立病院機構の妊娠糖尿病や胎児発育不全に関する多施設共同研究に参加していますし、三重大学が主導する臨床研究にも協力していく予定です。実際の治療に役立つ画期的な成果が得られる事を期待しています。

出産年齢の上昇や不妊治療の進歩に伴い、今後ハイリスク妊娠が増える事は避けられないでしょう。難易度の高い分娩や手術が増えていると感じますし、我々も医療レベルを高めなければなりません。これまで指導して頂いた先生方や、日頃、私の無茶ぶりに答えてくれるすべてのスタッフに心から感謝しつつ、信頼できる仲間と共に、まずは目の前の患者さんとしっかり向き合っ、少しでも上を目指して頑張っていきたいと思いま





周産期医療の現場から

—全国ランキングワースト3から
トップ10入りを目指して—

周産期センター部長 **前田 眞**

三重県の周産期医療成績（母体死亡など）は、10年前は全国でビリでした。その後もワースト3から抜け出せずにはいましたが、7年前あたりから成績も向上し始め、最近では全国20位前後にまで上昇しています。その向上に大きく貢献している産科医の一人が前川有香先生です。彼女の現場での頑張りについて、一部を紹介したいと思います。

彼女は妊娠出産も経験し二児の母でありながら、その仕事ぶりは当院きっての「男前」です。周産期医療の現場は、ゆっくり検査をしたりチマチマ考えている余裕はありません。即決&断行、すなわち即断力が必須で、前川先生には頭も体も瞬時にフル回転フル稼働させる能力が存分に備わっています。加えて強い責任感も有しているので、院内に限らず県内でもその仕事ぶりが一番男前！加えて、産科危機的出血に対しても、女性らしくベッドサイドで見せる粘り腰の強さも超一流です。最も信頼して現場を任せられる人材です。

周産期医療、すなわち母児の生命予後に直結する三大要因は、母体は出血・血栓塞栓・高血圧で、児は未熟性・感染・胎児発育不全（FGR）です。中でも母体高血圧と児FGRは表裏一体です。彼女は早くから、そこに着目した臨床研究にも力を注いでおり、FGRや妊娠高血圧に関連した学会&論文発表、さらに複数の班会議にも積極的に参加しており、今では当院はもちろんのこと、三重県を代表する一人です。

もちろん医療現場は一人で何でも出来るわけではなくチームで対応しますが、彼女は常日頃からその中心になり、強いリーダーシップも発揮しています。

これからも、溢れる体力気力に吸収力と三拍子揃った優秀な若手産科専攻医が、今以上にたくさん参集してくれる周産期センター産科部門にしていってけると信じています。

院内外を問わず皆様からの、さらなるご支援をお願い致します。全国トップ10入りを目指して！



婦人科医長 **吉村 公一**

うーん、名医の定義は難しいですね。どのような医師を名医というのかはいろいろ意見があるでしょう。さて、われらが前川有香先生はというと、研修医の時から良く切れましたね。「切れる」といっても「ブチギレル」ではなく「切れ者」という意味ですから誤解のないように。快刀乱麻を断つごとくスパSPA問題を解決します。その能力でたくさんの外来患者さんを診察していきます。それ故に益々、前川先生の診察を希望する患者さんが増えて、当院内での年間入院患者数（退院サマリーの数）はいつもトップ3に入っています。これからは、自分の健康にも留意しながら頑張ってください。



産科医長 澤木 泰仁

私が国立津病院（三重中央医療センターの前身）に赴任して、3年後の昭和59年にNICU（新生児集中治療室）が出来、母子センターに認定されました。その後、平成10年7月に現在の場所に、国立三重中央病院として移転し、平成15年に三重中央医療センターとなりました。この間に三重県から総合周産期母子医療センターの認定を受け、三重県の周産期医療の中心的役割を担う病院となり、現在に至っています。今ではスタッフの世代交代も進み、当初のスタッフは私一人に成りました。今、若いスタッフが活躍しているのを見ると頼もしく思え、今後も三重県の周産期医療の中心的役割を担う病院として活躍してくれるものと思います。



産科 日下 秀人

前川有香に最も影響を与えてきたHIDETO☆日下です。

彼女との接点は、遡ること40年。周りには変人と言われているこんな僕ですが、前川有香先生には絶大な信頼を置いています。僕にない何かを持っている彼女ですが、唯一改めて欲しいことがあります。男衆にキツく注意するのはやめて欲しいです。でも、その指摘は悔しくも当たってますが。

それはさておき、これからもさらに大きく羽ばたいて行って欲しいです。



産科 紀平 力

日本周産期学会が定める、周産期（母体胎児）専門医として、胎児の形態スクリーニングや心臓スクリーニング、出生前検査（コンバインド検査、OSCAR検査など）を案内提供しています。

また、Advanced Life Support in Obstetrics (ALSO)：周産期救急に効果的に対処できる知識や能力を発展・維持するための教育コースの「三重県で最初のインストラクター」として産科チーム医療普及のため施設外でも精力的に活動しています。



産科 波多野 芙美

昨年から当院で勤務している産婦人科の波多野です。

いつも前川先生より熱いご指導いただいております。前川先生の技術だけでなく、ギネ女（産婦人科女医）魂を受け継ぎたいと日々精進しております。前川先生が病棟にいてもらえるだけで心強く、ズバッと判断されるカッコイイ一面と女性らしいきめ細やかな心遣い、挙げだしたらきりがないくらい見習いたいところが沢山あります。前川先生には、日常診療のみならず、学会発表のご指導もしていただいております。先日、日本妊娠高血圧学会での口演発表を終えたところです。病棟でも学会会場でも頼りになる存在です。いつまでも一緒に仕事がしたい先輩です。



産科 森下 みどり

今春から院内でお世話になっている森下みどりです。

波多野先輩と一緒に病院官舎に住み込んで、緊急時対応の呼び出しに備えています。そして、呼び出される時のほとんどの場面で前川先生からの優しくも厳しいご指導をいただいております。このチームの一員になれたこと、そして前川先生から直接ご指導いただけることを喜びとし、今後ますます精進してまいります。

我が故郷

津・久居

■私と三重中央医療センター■

生まれは父母の故郷である兵庫県神戸市ですが、小さいときに久居に引越してきました。

津市・久居このまちが私のふるさとです。

そしてこの三重中央医療センターにはたくさんの方がいます。父が三十歳、私が保育園児だった頃、父は直腸癌と診断されて手術を受けました。それが久居駅の裏にあった国立津病院であり、三重中央医療センターの移転前の病院です。十年以上が経過して、私が高校生になった時に父の癌は再発しました。二回目の手術を受けることになりました。そのときにお世話になった看護師さんのことを今でも忘れていないどころか、私の心の中ではいつまでも輝き続けています。いつしか看護師さんになることが将来の夢となり、国立津病院附属看護学校に入学することになりました。

入退院を繰り返していた父は、私が看護学校一年生の冬に他界しました。

「○○看護婦さんも○○看護婦さんも本当に優しくしてくれて。」「今日は○○さんという看護学生さんがついてくれて、いろんなこといっぱい喋ってくれたから気が紛れたんやわ。」

「みんなみたいによくできる看護婦さんになりなよ。恥ずかしくないようにな。」私と父とは本当に仲が良かったので会話のひとつひとつを覚えていきます。

看護学校卒業は国立津病院から三重中央医療センターへの移転の年でした。共に歩んできた大切な三重中央医療センターです。中学、高校、

看護学校、社会人と一度も津市を出ず、今では感謝を込めて「まちづくり」にも携わらせて

もらっています。このことが少しでも役に立ち、病院と地域が交流を持ち、溶け込み、患者様がまちの文化と触れることができたらいいなという想いのもとに「ミエチュウオウ文化祭」が形になりました。たくさんの方が関わり、継続していったらいいなと感じます。

今年（祝）のミエチュウオウ文化祭は十一月三日
木曜日です。



手術室看護師
向出 絵里



輝くメディカルスタッフたち

医師、看護師以外にも、多くの専門性を持ったスタッフが当院院内で活動しています。その人と仕事にスポットを当てて紹介します。

副臨床検査技師長 米田 昭代

この度、4月より臨床検査科に赴任して参りました。

私自身、こちらの病院には旧三重中央病院の開設時に一度お世話になり、それからは機構病院をいくつか経験し、再び縁あって現在の三重中央医療センターに着任の運びとなりました。懐かしい顔にお会いし、皆さんからの『おかえりなさい』という言葉に身の引き締まる思いです。臨床検査科は大きく分けて検体検査、細菌検査、病理検査、生理検査に分かれており、スタッフは検査技師長はじめ、副検査技師長、

主任検査技師、検査技師、助手

の総勢23名です。世代としては20代の若手技師から上はベテラン技師まで幅広い世代が頑張っている職場です。私たちは『迅速、かつ正確に結果を報告する』をモットーに日々頑張っており、また、患者様にはどんな時も特に多忙な時こそ『笑顔で声かけ！いつでも、どこでも、だれにでも』をモットーに対応に努めています。検査科はこれからもチーム医療として病院に貢献していきたいと思っています。



「里山こころの便りー柵原の窓から」

第6話 薬物依存症について

有名な歌手や野球選手による覚せい剤の依存症問題が社会を騒がせました。また危険ドラッグが社会問題となったこともありました。危険ドラッグは法規制が現状に合わせて個別の違法薬物の指定をしなくても包括的に取り締まることになり平成26年より急速に表舞台より消えました。これらの依存性薬物問題は法律による取り締まりが厳しく、一般の人々には無縁と思われていますが、若者には新奇的な挑戦や興味から使用の危険が存在していることは事実です。ここではこのような違法ドラッグ（麻薬、覚せい剤、大麻など）ではなく、日常で使用する「おクスリ」が起こす依存問題を取り上げます。依存で共通しているのは「コントロールができない使用（抑制困難）」です。

最も問題となるのは、ベンゾジアゼパム系統の睡眠剤や抗不安薬（精神安定剤）です。ほとんどの睡眠剤と安定剤がこれに当たりますが、これらは医療機関で処方されることが多く、私たち医療者の問題でもあります。適正に使用されれば副作用の少ない安全な薬物ですが、多剤大量の使用や複数の医療機関より重ねて投与される場合には、アルコール依存と全く同質（酩酊、連続使用、離脱症状など）な問題を生じます。常用薬ですので常用薬依存とよばれ、特に高容量の常用薬依存が問題となります。風邪薬や市販安定剤や睡眠剤は、咳止めシロップには抗ヒスタミン剤だけでなく、リン酸コデイン（麻薬の一種）やエフェドリン（覚せい剤類似の覚醒作用）が入っており、やはり用法用量を無視して使用すると依存が生じます。繰り返しますが正しい使用をしている限り、これらの薬物は有用で安全ですが、それらの薬にも依存問題が潜んでいることは念頭に置いてください。心配なときに薬剤師に遠慮無くおたずねください。



村上 優

柵原病院
院長

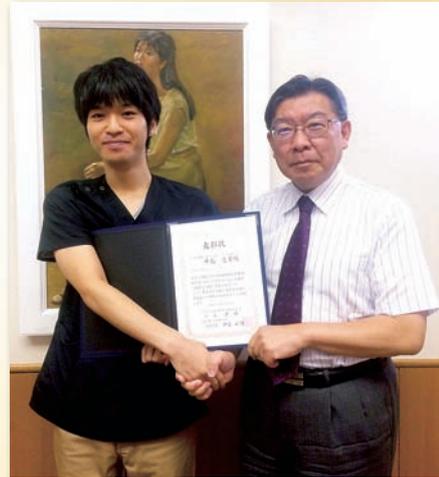


研修医の中島 悠貴先生が、 内科学会優秀演題賞を受賞しました！

2016年6月26日に、静岡県浜松市で開催された第229回内科学会東海地方会において、当院研修医（1年目）中島悠貴先生が、内科学会優秀演題賞を受賞しました！

内科学会地方会での優秀演題賞受賞は、昨年の第227回（岐阜）の阿曾広昂先生に継いでの快挙になります。

三重・愛知・静岡・岐阜の東海4県のすべての研修病院の演題から選ばれたので、当院の医師教育のレベルの高さが証明されたものと思います。



表彰状を手に霜坂辰一院長（右）の激励を受ける中島悠貴医師（左）

シリーズ 医療用語の 基礎知識 18

病院職員が何気なく使用している用語で、普通にはあまり馴染みがない医療用語を分かりやすく解説します。

「MAさん」

よく、外来の診察室で先生と一緒にいて「エムエーさん」と呼ばれている職員がいます。この方々は、一体何者でしょう？

当院では「メディカルアシスタント」の略として「MAさん」と呼んでいますが、「医師事務作業補助者」が正式名称となる職員です。2008年に診療報酬制度で業務内容などが定義され、MAさん達を採用する病院が増えました。

業務内容としては、医師の指示のもと、電子カルテへの代行入力や診断書などの文書作成補助、退院サマリー作成補助など、その名のとおりに、医師の事務作業を補助するお仕事を行っています。

MAさん達の活躍により、先生方の事務作業負担が軽減され、本来の診療業務に専念できるようになるため「MAさんがいないと仕事にならない」という先生もいるほど必要とされている職種です。

当院では、一般病床456床に対して25人（常勤職員に換算した場合）のMAさんが勤務しており、診療報酬上の施設基準として「医師事務作業補助体制加算1（20対1）」の届出を行っています。この20対1とは、一般病床20床に対して1名以上MAさんが勤務している状態のことを言い、8段階中2番目に配置人数が多い基準となります。

また、三重県内には100の病院がありますが、医師事務作業補助体制加算の届出を行っているのは34病院（平成28年10月1日現在、東海北陸厚生局HPより）とのことであり、まだまだMAさんがいる病院は少数派です。

余談ですが、先生方が勤務する病院を選ぶ際に「この病院のMAさんは何対1の届出なのか？（事務仕事を軽減できるスタッフがどれだけ配置されているか→診療業務に専念できそうか）」という点も評価のひとつと聞いたことがあります。

ということで、MAさんは「先生方からも必要とされ、医療サービスの向上にも貢献する事務スタッフ」ということになります。

こういった方々の活躍により、先生方からは「勤務したい」、皆様からは「自分（家族）の診療を任せたい」と選ばれる病院であつたらいいなと思います。



事務部企画課 専門職 正田 長彦（まさだ ひさひこ）

がん市民公開講座報告

10月1日(土) アスト津 アストホールにて「知ってもらいたい、胃がんのこと」をテーマに市民講座を開催いたしました。

当日は、260名という多くの方にご来場いただきました。

日頃の検診の必要性をご理解いただく機会になったと思われました。

皆様も、定期検診を忘れずお受けください。



出前！市民公開講座報告

3年目を迎えた出前！市民公開講座は第130回を迎えることができました。

皆様にご興味いただきご注文いただけた結果だと感謝申し上げます。

これからも、皆様のご期待に添えるよう努力してまいります。

よろしく願いいたします。



第122回
津まん中なかよし会 様



第128回
健康・元気・ひろめ隊 様



第130回
草生小学校 PTA 様

三重中央医療センター附属三重中央看護学校 平成29年度一般入試受験生募集

- 出願期限：平成**28**年**12**月**5**日(月)～**1**月**5**日(木) 必着
- 試験日：平成**29**年**1**月**12**日(木)
- 試験科目：英語(コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ 英語表現Ⅰ)
国語(現代文のみ)
数学Ⅰ
- その他：募集要項と願書の請求は電話、FAXまたはEメールで「募集要項請求」と明示の上、ご自分の住所、氏名、電話番号を記入し申し込んでください。



電話：059-259-1177 ● FAX：059-259-1170 ● Eメール：miechuo@ztv.ne.jp

出前！市民公開講座のお知らせ

入場無料

●会場：津リージョンプラザ 健康教室

11月9日(水) 14:00~15:00

●テーマ：あなたのお酒の飲み方大丈夫？ アルコールと病気のはじまり

講演：NHO 榊原病院 中井 美紀



■放映時間

(1日2回) 約15分間
9:00~9:15
21:00~21:15

7月1日より、ケーブルZTVの医療健康番組「食と健康」「おしえて先生」に当院のスタッフが出演しています。ぜひ、ご覧ください。

●出演予定者

「食と健康」

11月 整形外科…………長倉医師
12月 循環器内科……田中医師

「おしえて先生」

11月 循環器内科……新谷医師
12月 消化器内科……竹内医師

「クローバー友の会」 会員募集

「クローバー友の会」は地域の皆様と病院が、様々な病気・医療の学習を通して理解を深め合う会として発足しました。賛同いただける方はぜひ会員登録をお願いいたします。登録は無料です。会員には当院から健康に関する様々な情報をお届けします。受付でお声かけください。登録と同時に会員証をお渡しいたします。

たくさん勉強していただいた方には素敵なプレゼントがあります。

記入いただいた個人情報は本会の業務以外には使用せず、安全かつ適切に管理いたします。

三重中央医療センター 地域医療連携室

独立行政法人
三重中央医療センター
クローバー友の会事務局

〒514-1101 三重県津市久居明神町 2158-5
TEL 059-259-1211 内
地域医療連携室

0115555555
三重中央医療センター クローバー友の会

会員にご登録いただきありがとうございます。
講演会に参加いただくことに1スタンプ押印いたします。
(スタンプ数による特典は別紙公表いたします。
特典は変わることがあります。)

1	2	3	4	5
6	7	8	9	10
11	12	13	14	15
16	17	18	19	20

■会員証
住所 _____
氏名 _____
電話 _____

編集後記

秋も一段と深まり、夜長の頃となりました。「〇〇の秋」と言えば皆さん何を思い浮かべますか？私は久しぶりに購入した本が面白く「読書の秋」を満喫しています。読書以外にもこの号が発行される直後かもしれませんが、11月3日に「ミエチュウオウ文化祭」が開催されます。もしご都合が良ければ「文化の秋」を感じにご来院いただければ幸いです。(南)

発行所

三重中央医療センター
院長 霜 坂 辰 一

三重県津市久居明神町2158番地5
TEL. 059-259-1211
<http://www.hosp.go.jp/~nmch>

●●● 三重中央医療センター連携医療機関紹介 ●●●●●●●

三 重 ガ ン マ

ホームページ：<http://www.shiokawa-hp.jp/>



ガンマナイフとは、短期間の入院で脳腫瘍、脳動静脈奇形、三叉神経痛などを切らずに治す治療装置で、2003年に三重県下唯一のセンターとして塩川病院に開設されました。これまで三重中央医療センターの先生方をはじめ県内外から多くの症例をご紹介いただき、3,000件以上の治療を行って来ました。脳の病気で不安を抱える患者様が多

いため、診察は予約制で、他の治療方法も含めて治療方針について十分相談した上で治療を受けて頂いています。治療後も各科の先生方と連携を取りながら、経過をみて行きます。



センター長：堀 康太郎

住 所：〒513-0844 鈴鹿市平田町1丁目3番7号

電 話：059-378-1417 Fax：059-370-4656

E-mail：gam@shiokawa-hp.jp

診療時間：月：13：00～15：00

火、水、木：15：00～17：00

金：9：00～17：00

※詳しくは病院ホームページをご覧ください。

紀南病院組合立 紀南病院

ホームページ：<http://www.kinan-hp-mie.jp/index.html>



高速道路が熊野市まで延び、津インターから約1時間50分程度で着くようになりました。平成27年4月に、東紀州地域で初めての回復期リハビリテーション病棟を開設し、脳血管疾患や整形外科疾患の手術後の患者さん・ご家族から、好評をいただいています。また、同年11月からは地域包括ケア病棟を開設し、看護師や理学療法士、地域連携室職員などが、院外関係者と早期から関わることで、地域包括ケアシステムを推進しております。そして、新本館（写真の建物）が平成28

年4月に完成し（免震構造5階建）、屋上にドクターヘリのヘリポートを設置して診療対応力は大幅にアップしました。

紀南地方の中核病院としての自覚をもって、災害時の対応や救急医療、急性期から回復期の医療に取り組んでおります。

住 所：〒519-5293

三重県南牟婁郡御浜町阿田和4750

電 話：05979-2-1333(代) FAX：05979-2-3357

(総務課)

診療受付時間：平日の8：00～11：30

(整形は11：00まで。予約必要科有。)

診 療 科：内科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、眼科、歯科口腔外科、神経内科、皮膚科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、

病 床 数：一般140床、地域包括ケア病棟60床、回復期リハビリテーション病棟40床、感染4床（計244床）

*外来人工透析23床

施設基準：一般10対1入院基本料

地域包括ケア病棟入院料1

回復期リハビリテーション入院料3

みえ 消化器内科

ホームページ：<http://http://www.miesho.com>



当院は津駅西口900mで、県立美術館の西に位置するTTC医療ビル内にあります。平成19年に多くの方々のご支援、ご助力により、三重県下初に肝臓病を中心とする消化器科内科専門クリニック「みえ消化器内科」を開院させていただきました。三重大学医学部附属病院で長年つちかった経験を生かして皆様の健康管理のお役に立ちたいと考えています。肝臓は栄養・代謝の中心であり、肝機能を良くすることは生活習慣病の予防にもつながります。開院後9年経ちました。当

院を受診された慢性肝炎患者は2,000名を超えました。多い順に、脂肪肝（51%）・C型肝炎（28%）・B型肝炎（12%）・アルコール（5%）・原発性胆汁性肝硬変（3%）・ウイルソン病（1%）・ヘモクロマトーシス（1%）です。肝臓病専門医2名で診療しています。肝臓病の治療はおまかせください。肝臓病の治療や胃癌・大腸癌の検査と手術など三重中央医療センターの各科の先生方にお世話になっています。今後共よろしく申し上げます。

院長：垣内 雅彦、副院長：生駒 次朗
 診療科目：肝臓内科、消化器内科、内科
 住所：〒514-0062 津市観音寺町799-7
 TTC医療グループビル内
 電話：059-213-1001 FAX：059-213-1002
 休診日：日曜・祝祭日・水曜

診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
9:00～12:30	○	○	△	○	○	○	△
15:00～18:30	○	○	△	○	○	14:00～17:30	△

別所 ヒフ科



当院は1977年に津新町駅近くの大田ビルにて開院させていただきました。そして2000年5月に現在の場所に移転し、現在で開院より39年、来年には40年目となります。地域に根ざした医療を目指し、継続することを心がけております。

皮膚科診療のみですが難治なアトピー性皮膚炎、尋常性乾癬、掌蹠膿疱症などに効果のある中波長紫外線療法機器を備えております。また小さい腫瘍に関しては皮膚腫瘍摘出術を行っておりますし、皮膚生検、パッチテストなどの検査もしております。難しい症例などは、いつもお世話になっておりますが三重中央医療センター皮膚科をはじめとする病院に紹介させていただいております。今後ともよろしく申し上げます。

院長：別所 愛彦
 診療科目：皮膚科
 住所：〒514-0042 津市新町1-10-19
 電話：059-226-5512 FAX：059-223-3700
 休診日：水曜・土曜日午後・日曜・祝日

診療受付時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
9:00～13:00	○	○	△	○	○	○	△
15:00～19:00	○	○	△	○	○	△	△



外来診療担当表

平成28年10月1日現在

診療科名等		月	火	水	木	金	
初診内科 (初診・予約外)	1診	井端 英憲【呼】	大本 恭裕【呼】	中久木 哲也【循】	田中 剛史【糖】	川崎 敦【循】	
	2診	竹内 圭介【消】	三重大学医師【循】	岡野 智仁【呼】	田中 淳子【循】	後藤 浩之【糖】	
	3診	新谷 卓也【循】	子日 克宣【消】	倉田 一成【消】	渡邊 典子【消】	北出 卓【消】	
	4診	武内 哲史郎【循】	奥田 昌也【糖】	田口 由紀子【消】	吉川 恭子【消】	内藤 雅大【呼】	
再診内科 (再診予約のみ)	呼吸器内科	5診			井端 英憲 (午後再診)		
	循環器内科	5診	田中 淳子	川崎 敦	中久木 哲也 (午前再診)	武内 哲史郎	
	(整形1診)					北村 政美	
	呼吸器内科	6診		井端 英憲	井端 英憲	大本 恭裕	大本 恭裕
	(整形1診)			藤本 源			
	消化器内科	7診	子日 克宣	北出 卓	渡邊 典子	倉田 一成	竹内 圭介
	内科	8診	中久木 哲也【循】	新谷 卓也【循】	後藤 浩之【糖】	田口 由紀子【消】	新谷 卓也【循】
		9診	後藤 浩之【糖】	田中 剛史【糖】	田中 剛史【糖】	田中 崇【糖】	田中 剛史【糖】
		10診			内藤 雅大【呼】	奥田 昌也【糖】	岡野 智仁【呼】
	(整形2診)				渡邊麻衣子		
ペースメーカーチェック		ペースメーカーチェック (毎月第1月曜日午後)			ペースメーカーチェック (毎月第1木曜日午前)		
神経内科	1診	北川 長生	北川 長生	北川 長生	北川 長生	北川 長生	
	2診	吉丸 公子	賀川 賢	賀川 賢	賀川 賢	吉丸 公子	
	3診	掃部 俊貴			掃部 俊貴		
小児科・新生児科 (初診・再来初診は紹介のみ) (NICUフォロー発達外来は予約のみ)	午前	1診	井戸 正流	NICUフォロー	井戸 正流	田中 滋己	田中 滋己
		2診	*NICUフォロー	*NICUフォロー	発達外来	*NICUフォロー	NICU連携外来
		3診	田中 滋己(初診)	田中 滋己(初診)	山本 初実(予約)	井戸 正流(初診)	
		4診	発達外来	発達外来	NICUフォロー	発達外来	
	午後	1診	NICUフォロー	乳児健診・乳児健診(N)	NICUフォロー 大森あゆみ(奇数週) 内園 広匡(偶数週)	田中 滋己 (奇数週、予約)	予防接種 (新生児科)
		2診	NICUフォロー	2週間・1ヶ月健診	発達外来	NICUフォロー	内分泌・成長外来
		3診	NICUフォロー 大槻 祥一郎	大槻 祥一郎 (心臓・呼吸器)	山本 初実(予約)	NICUフォロー 大槻 祥一郎(奇数週)	シナジス外来
		4診	発達外来(学童)	NICUフォロー	NICUフォロー	NICUフォロー	発達外来(学童)
総合診療科					近藤 諭		
外科	1診	湯浅 浩行	谷川 寛自	横井 一	信岡 祐	谷川 寛自	
	2診	横井 一		松田 明敏		湯浅 浩行	
緩和ケア外来(予約・紹介のみ)						谷川 寛自	
整形外科 (予約・紹介のみ)	1診	田中 雅		田中 雅			
	2診	長倉 剛		中西 巧也		長倉 剛	
	3診	中西 巧也		横山 弘和		横山 弘和	
脳神経外科	1診	石田 藤麿	種村 浩	種村 浩/田中克浩	田中 克浩	石田 藤麿	
	2診	霜坂 辰一	石田 藤麿	霜坂 辰一	種村 浩	田中 克浩	
脊椎・脊髄外科(予約・紹介のみ)			*水野 正喜 *診療時間は10:00~14:00までとなります。				
呼吸器外科			安達 勝利		樽川 智人	安達 勝利	
心臓血管外科		浦田 康久		佐藤 友昭		日置 巖雄	
皮膚科*(予約・紹介のみ)		中西 朝子	三重大学医師(再診)	中西 朝子	三重大学医師	中西 朝子	
泌尿器科	1診		加藤 雅史	加藤 雅史(初診)	加藤 雅史	加藤 雅史(初診)	
	2診		岩本 陽一(初診) (小児泌尿器)	岩本 陽一	岩本 陽一(初診) (小児泌尿器)	岩本 陽一	
産科・婦人科	午前	1診(初診)	前川 有香	日下 秀人	前田 眞	吉村 公一	澤木 泰仁
		2診(婦人科再診)	前田 眞	紀平 力	吉村 公一	紀平 力	日下 秀人
		3診(産科再診)	森下みどり	波多野 芙美	前川 有香	森下みどり	波多野 芙美
		4診(助産師外来)	毎日、完全予約制(担当は交代制)				
	午後	1診(産科再診)	前川 有香	日下 秀人	前川 有香	吉村 公一	澤木 泰仁
		2診(婦人科再診)	澤木 泰仁	紀平 力	吉村 公一	紀平 力	日下 秀人
3診	助産師外来	産後一ヶ月健診	助産師外来	助産師外来	助産師外来		
眼科			三重大学医師	三重大学医師			
耳鼻咽喉科	午前(初診)			伊藤 由紀子	伊藤 由紀子		
	午前(再診予約のみ)			伊藤 由紀子		伊藤 由紀子	
	午後(再診予約のみ)	伊藤 由紀子	中耳外来		中耳外来		
放射線科(7ブロック)		奥田 康之	奥田 康之	奥田 康之	奥田 康之	奥田 康之	
リハビリテーション科		横山 弘和	田中 雅	長倉 剛	長倉 剛	田中 雅	
歯科・歯科口腔外科		柳瀬 成章	柳瀬 成章	柳瀬 成章	柳瀬 成章	柳瀬 成章	
看護外来(予約のみ)		第1月曜日 透析予防外来 がん看護相談外来	第3火曜日 透析予防外来 がん看護相談外来	糖尿病外来 がん看護相談外来	ストーマ外来 がん看護相談外来	*フットケア外来 がん看護相談外来	

*初診及び予約のない再診の方の受付時間は8:30~11:00までです。 *医師の人事異動・出張等により臨時に代診(休診)となる場合があります。
*本院のような急性期病院は、病棟入院患者様の処置、手術、検査、回診等があり、外来診療に制限を設けなければならない診療科もあることを御理解ください。

不整脈専門外来	肝炎外来	いびき・無呼吸検査	タバコ障害・COPD精査	ものわずれ外来	乳児健診	予防接種	NICUフォロー
月曜日 午前診療	月曜日 午前診療	月・火曜日 午前診療	月・火・水・金 午前診療	月・金曜日	火曜日 午後診療	金曜日 午後診療	月・火・木曜日 午前診療
循環器内科(新谷)	消化器内科(竹内)	呼吸器内科	呼吸器内科	神経内科(吉丸)	新生児科		新生児科(盆野)
未破裂脳動脈瘤の相談 要予約(自費)	脊椎・脊髄外科専門 (紹介)	肺癌・良性肺腫瘍・ 気胸・縦隔腫瘍・嚔胸	中耳外来 (予約)	ブレママ外来	おっぱい外来 (予約)	発達外来	緩和ケア外来 (要予約)
金曜日 午前診療	火曜日 (10時~14時)	火・木・金 午前診療	火・木曜日 午後診療	月・木曜日午後 火曜日午前診療	月・木曜日 午前診療	月・水・木曜日 診療	金曜日 午後診療
脳神経外科(石田)	脊椎・脊髄外科(水野)	呼吸器外科	耳鼻咽喉科(伊藤)	産科・婦人科		小児科(山川)	外科(谷川)